

「奥会津昭和村」活性化プロジェクト —カスミ草を核としたリノベーション提案—

A2201606 太田 敦子

研究の背景

昭和村は、福島県会津地方の奥会津に属する村で、1927年、野尻村と大芦村が合併し、誕生した。昭和村は現在人口が福島県内でもワースト2位、そのうち高齢者の割合が7割と、過疎化の進んだ地域である。険しい山を越えるため、行くことが困難なことが原因の一つだと考えられる。昭和村の経済の基盤としてカスミ草の出荷量日本一という数字が挙げられる。日本では熊本県もカスミ草の産地だが、昭和村は1年を通して長い期間でカスミ草を出荷している。このことから行政側は、カスミ草を軸とした提案を求めている。

研究の目的

昭和村の将来的課題を考慮し、経済の基盤となっているカスミ草やエゴマなどの農業を行う人員の増加を主な目的としている。又、空き家の問題にも着目し、昭和村の地域住民を増やす手段として、旧喰丸小学校の活用デザイン案を提案する。行政やカスミ草農家を取材した結果、後継者を求めていることがわかった。そのため、今まで長きに渡り地域のシンボルとなっていた旧喰丸小学校の改修リフォームに合わせ、行政が求める新たな提案をしたいと考えたのである。

研究のプロセス

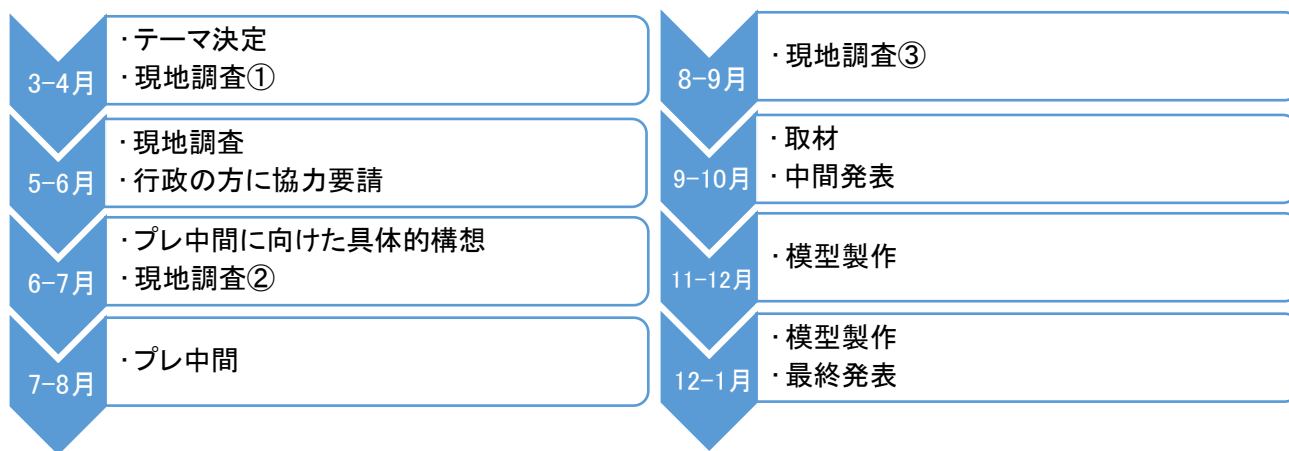


図 1:2017/05/11 撮影 旧喰丸小学校 正面



図 2:2017/07/22 撮影 旧喰丸小学校 裏面

取材風景



図 3 カスミソウ農家の方との取材風景



図 4 行政の方との取材風景

完成作品

旧喰丸小学校利活用デザイン提案(リノベーション案)

1Fは、

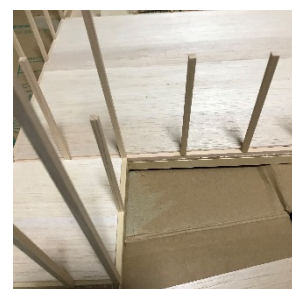
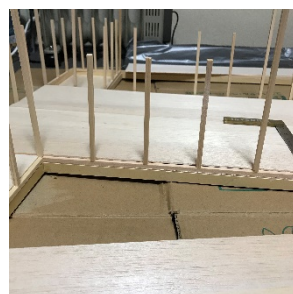
- ・カスミ草の育成、収穫の仕方を講義する講義室
- ・新商品の企画・開発を行う企画・開発室
- ・カスミ草について研究する研究室
- ・休憩できラウンジ

のほかに、水周りや食堂などを置き、主に生活のほとんどを1Fで過ごすよう考案。

2Fは寝泊りする部屋を、パーテーションを使って考案。



模型写真



考察

今回、昭和村に触れるにあたり、昭和村の人の良さ、食べ物のおいしさなど、たくさんの魅力を体験できた。カスミソウ農家の方々はとても明るく、行き着けのカフェの店長は優しく、且つ元公務員ということもあってかとても丁寧に取材に応じてくれた。卒業研究のテーマとして昭和村に決めたいきっかけは些細なものだったが、昭和村に関わられて非常に光栄に思う。村長が存続に投資をした旧喰丸小学校について話を聞いたのは一番最初の行政の方との取材だった。地域住民の中では存続させるか取り壊すか、半々の意見だったらしいが、築80年という歴史ある建物を存続させたこと、使っていた板や木材などを再利用すること、素晴らしいことだと思った。その使われ方が多目的室とギャラリーだけでは勿体無いと思っていたところで、取材を重ねる中で昭和村の経済の基盤となっているカスミソウにたどり着いた。近々20名近くのカスミソウ農家が高齢化を理由に引退するらしい。若い人材を増やすためにも、カスミソウ農家育成の手助けとなることを考えた。